

旧村川別荘だより

129

平成29年12月21日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

市民ガイド月例会が開催されました

12月1日(金)に月例会が開催されました。今年最後のシフトの調整(12月分と翌1月分)と、新しく参加して下さったガイドさんのご紹介をさせていただきます。今年のご募集では4人の方々にご応募いただき、来年からまたみなさんと協力して旧村川別荘を盛り上げていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

12月になり、ここにきて急に冷え込みも厳しくなりました。年末まであと少しです。体調など、崩されないようにしてくださいね。



百年前の絵の場所を探して

今回の月例会では、先日JCOMでも放映されておりました「百年前の絵の場所を探して～白樺文学館所蔵の5枚の絵から～」という題目で、約100年前に絵に描かれた風景の場所を探すとというものでした。

* * * * *

●絵の作者たち

～原田京平、三岸好太郎、バーナード・リーチ～

・原田京平(1895～1936)

白樺文学館では4回にわたる企画展を行いました。静岡県磐田郡の生まれで、上京してからは絵画や短歌を習いました。そして、大正10(1921)年に我孫子に来て、春陽会展覧会に「沼(手賀沼)」を出品し、その後も我孫子を題材にして、絵や短歌を数多く制作し、世田谷へと移住しました。



・三岸好太郎(1903～1934)

北海道札幌市に生まれた三岸は、上京し、白樺派の美術に魅了され、春陽会に出展し首席を受賞するなど、

その才能を開花させました。我孫子へは絵を描きに出かけたようです。



昭和9(1934)年に亡くなりますが、のち札幌に三岸好太郎記念館が設立されます。

・バーナード・リーチ(1887～1979)

バーナード・リーチは、香港生まれで、ロンドンに渡った際にエッチング技法を学びました。明治42(1909)年来日し、上野桜木でエッチング教室を開きます。その後、大正6(1916)年に柳宗悦邸に窯を築き、作陶に励みましたが、2年後に行われた11回目の窯入れの後、工房が焼失し我孫子を去りました。大正9(1919)年になると、濱田庄司と共にイギリスに渡り、セントアイヴスに登り窯を築き、さらに技術を磨きます。そして、昭和になり、再び来日し、日本民藝館の設立に尽力しました。



●絵の場所を探して

①原田京平の「坂道」

・制作年＝大正10(1921)年～昭和3(1928)年のいずれか

・絵を紐解く＝坂道、両側が法面(左がやや高く、右が低い)、奥に手賀沼、冬から春先(枯木、轍)



左側：原田京平作「坂道」 右側：現在の場所か

前ページの作品を見ると、第一小学校南側から手賀沼に向かって下りていく坂道ではないかと考えられそうです。

②原田京平の「道」

- ・制作年＝1921（大正10）年～1928（昭和3）年のいずれか
- ・絵を紐解く＝奥に手賀沼、その前に水田（新田）、ハケの道が奥に向かって緩やかにカーブ、右に畑と民家、冬から春先にかけてか？



左側：原田京平作「道」 右側：現在の場所か

天神坂付近から西側（手賀沼公園入り口付近）を眺めた光景と考えられます。

③原田京平の「手賀沼」とバーナード・リーチ「手賀沼」

- ・制作年 原田の「手賀沼」＝1921（大正10）年～1928（昭和3）のいずれか
- ・リーチの「手賀沼」＝1918（大正7）年 The Lagoon of Teganuma, Abiko
- ・絵を紐解く＝原田の「手賀沼」＝冬枯れの手賀沼、葦原の先に係留される小舟、対岸の景色が波静かな沼に写り込んでいます。村川家資料にも同様な写真。



左側：原田京平作「手賀沼」 右側：村川家資料

リーチの「手賀沼」（右側）＝夕方の陽が沈む一瞬、一日の漁を終えた漁師が獲物を整理する場面。「…私は我孫子で彼が描いた千九百十八年の作「沼」の一枚を、わけても彼の傑作と思ふ。「沼」は手賀沼であって私には特に思ひ出が多い。或秋の夕方日が沈む



頃、彼が沼辺でこの景色に眺め入ってスケッチしてゐたのを覚えてゐる。その線や影の味ひに私は彼の心をまともに読む想ひがする。」（柳宗悦「私の知るリーチ」1920年）

→三樹荘から近い距離にある葦原の先＝現在の手賀沼公園あたりではないかと考えられます。秋の日没だとすると西南西方向を見て描いています。

「リーチ岬」とでも呼んでみてはいかがでしょうか。（*^_^*）



④三岸好太郎の「崖」



左側：三岸好太郎作「崖」 右側：現在の場所か

- ・制作年 1923（大正12）年～1925（大正14）年ころか？
- ・絵を紐解く＝崩落した崖に見える関東ローム層、稜線が二つに分かれている箇所は道、崖前に家屋の屋根、手前には谷津の水田か荒地、上から見下ろす感じ
- 楚人冠公園付近から東側を眺めたものか。

●まとめ

大正から昭和初期にかけて、我孫子は景色のよい別荘地として知られ手賀沼や崖などを求め画家が集いました。絵画は、色がついた貴重な資料です。今後「日記」などの裏付けを進め、正確な制作年月日を把握していけば、新しい発見がまた見つかるかもしれません。※「リーチ岬」ぜひ、広めていきましょう！！（^_^）

ガイド研修について

●「館山」に行きます！

来年の2月5日（月）に館山へ研修に行きます。参加ご希望の方は、申込書のご提出をお願いいたします！

次回の月例会は・・・

今回は平成30年1月9日（火）9時30分から旧村川別荘新館で行います。あっという間に年の瀬です…今年もみなさまには大変お世話になりました。年末年始はぜひとも有意義にお過ごしくださいね♪ また来年もどうぞよろしく願いいたします！